

寛永諸家譜

藤原氏丁三冊之内一  
兼通流

97

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 ( 97)
函號	76 1



本多

● 重次しげつぎ

作左馬さだまさ

冬別ふゆわかれ 壬午みづのえ 小こ せり

七歳しちさいの時ときより 信康のぶかつ 廣忠ひろただ 卿きょう

東照とうてい大権現おほいけんげんより 此こゝより 始はじまる

永禄えいりく六年ろくにん之別のわかれより 始はじまる

中野なかの寺てら門かど後ご一いち掃そう乃のちより 重次しげつぎの



宗室をあらはしむる拙書をよみしに  
公道を乞ふに似るに一擧多し居  
て入火とらるるに似るに似るに  
を討つるに似るに似るに似るに  
とひし軍をあらはしむるに似るに

大権現とて感じしに似るに似るに  
忠義の途に似るに似るに似るに  
ありし時下之士織田信長の家人と評  
論しるに似るに似るに似るに

志ししに似るに似るに似るに  
しに似るに似るに似るに  
御鉄火とて感じしに似るに似るに  
に似るに似るに似るに

大権現重次とて感じしに似るに似るに  
信長乃令しとて感じしに似るに似るに  
乃し重次とて感じしに似るに似るに  
に似るに似るに似るに

大権現御とて感じしに似るに似るに  
揚屋とて感じしに似るに似るに  
重次



伊賀八幡文のおうしひく鉄  
火をとりて申しうむむしす  
此ゆへに旗下の士理よ定ん  
え龜三年十二月二十二日を別  
三方原合戦返陣乃と重次殿と  
時よ敵兵を討つて出火  
つらつらとらつらつらと敵十騎  
かり競し重次殿とつて交  
乃と一軍と十二人と突倒

いふらとれ首をとらぬ  
あつて淡松乃城とつて  
大指現ら道とつて  
あつてわが勢海のつとつて  
城中よおんく兵糧よおとす  
大指現ら道とつて  
之曲揚よをせ給ふ  
壬子元年本田道遠斬甲列乃  
兵を別乃幕よ出法とつて重次



作をいけし居りり一方よむひて戦  
功あり

同二年五月二十一日冬列名藤合戦  
乃時重次敵七八騎乃中よかひ入  
但討志く首をえしり之餘乃敵去  
重次とてんとも重次おとすひて  
疵とてあさり七首取たりと傳へ  
右の取切つる時一即後等  
いけしりり敵二騎と討らふ乃

少少意ふるるぬ

同甲子五月十一日

大権現重次が電( ) 後河ありし時  
志味の内膳の地と津和とと傳へ  
名命ありし騎士百人とあつり  
嫡子成すもさし 伊能ありし  
て秋廣の内膳をさ傳ふるは  
成す五歳仙千代と号す  
同九年を別言天神とすあり



元禄十次 仙をうむる満ちり一言

正徳十一年八月級生席十人といふ

同十二年虫久の合戦の時

約命より早稲の賊に居り

同年擧に乃城をせしむる事次

先鋒よりうけり

大権現秀吉と和睡乃より石川伯耆守

是男勝子代より重治が子成重

作より人傑よりり京都

いふより和睡乃の遠妻ありけ

ゆへに石川より小ご別より重次

かりよりり 質子成重と別

ふよりり御前より洋礼せむ

大権現と感し 始より和睡乃

和睡乃の 是後乃城を由り

冷きものと合戦より和睡乃

和睡乃正徳と 一といふ由り



後

大権現信ありけるは志すば中多重次  
あはれとて誰人の所せしめんをり  
うにをひく重次は命いはいゆ  
居てしむるは重次は命いはいゆ  
しむるは命いはいゆ  
もは感書と  
は命いはいゆ  
年とてに光り今と命いはいゆ

感書  
後  
成重の名を  
城者乃士二百人  
後  
大権現の御書  
後  
後  
後



同十八年右列小田原乃時敵兵  
戸倉城といひて刈田城と云ふ人とす  
重元とれと云ふと雖止れ城戸の邊に  
いふとれあひて小首中五級を  
えたり小田原は落のころ秀吉  
又権現といふといふ中多き元  
年人質といふふ冬列よかゆ  
とてと長持といひてか看を  
をとりてとてとてとてとてとて

これとらうらよかといふといふ  
又権現といふと家臣の列とす事  
ふれといふといふといふ  
又権現といふと命といふといふ  
屏居といふといふといふ  
かといふといふといふ  
六十八歳といふといふ  
病死といふといふ



成重

後五位下 飛騨守 小名 仁代

又丹下と号し 在列漢松よき

天正四年成重丑歳の時

大権現を浄礼し 寺に帰つた時

秋廣乃御殿者とお名

同十八年小田原陣乃と記 作と

いげと備りて 父重次と記

旗下乃しと記 父重次と記

つとむと記 父重次秀吉の命

と記 屏名と記 父重次

かきと記 父重次と記 乃ら成重と

海と記 父重次と記

志と記 丑年同原陣乃と記 旗下と

ありと記 父重次と記

同十八年越前冬強忠直の家人御守

乃しと記 父重次と記 成重



命をうけしるりて制法を治す  
越前よりしるりて同玉丸是地と  
を属しるりて知ら

同十九年大坂陣乃れ成重忠を  
し属しるりて十二月  
四日味方よりひらき大坂守に  
政成重しるりて池邊の柵と  
やかりしるりて小坂下よりしるりて  
敵兵よりしるりてしるりて成重

堯の元と鑑の胸に指しあはる嫡男  
重能も浦の美地をうらとれと又  
成重が即後失ふふあしりて死す  
その十六騎疾しるりてその百幸  
人しるりてしるりて其年十八年  
るり成重死つしるりて戦の元小栗又  
きしるりてあしりて味方志しるりて  
しるりてしるりてしるりてしるりて  
成重地の階十回しるりてしるりて備



を五鉄炮ごてつぱうとくもらて誠まことに申し討うつ  
大権現成重おほごんげんなるしげとす 之役このやくに申し告つげ  
ゆあ度ゆあどなかりに申し重しげ能よ  
うもく海うみに申し能よく業わざ磨とす  
ししり

大権現おほごんげん湯ゆに申し  
ゆの軍いくさを申しすし海うみに申し  
いれ申しに申しに申しに申しに申しに  
申しに申しに申しに申しに申しに

あしをの海うみ成重なるしげとす  
ししり軍いくさ令しむと告つげに  
ししり軍いくさ令しむと告つげに  
あしをの海うみ成重なるしげとす  
かたがと申しに申しに申しに申しに  
海うみを申しに申しに申しに申しに  
て是こゝに申しに申しに申しに申しに  
大権現おほごんげんと申しに申しに申しに  
あしをの海うみ成重なるしげとす



かたつみの東海中より来たのひれ者  
きこゆる成重は是よりも慶長にまゝに  
かゝるに野分正純が伴つてついで  
正純がいへばよみやふらねと殊しく  
とらにいきりていへばいへばいへば  
五日正純が使者にいわせしむ  
こゝろを失石れあはるゝと甲冑  
見えしむるにいへば成重の矢と  
ぬゝと成重をいへば使者にいへば

これをつゞす正純成重と伴つて  
中へ詣つていへば小袖羽織  
洋館よりいへば成重浦に  
御前へは禮儀と

大権現乃はいへばいへば  
目もいへばいへばいへば  
いへばいへばいへば  
御前へは礼儀と  
成重のいへばいへば



乃乃日又登々々々々々々々々々々々

志々々々々々々々々々々々

元和九年大坂再陣又月方成重

諸軍小々記々々々々々々々々々々

右職さきふまりしとひくく敵二騎さかと討

しふ旦又真田まの軍勢まを逃にらし

首二百ふた七なな之級しゆを討捕うとて大々おほ

門乃乃乃急いそ々々々々々々々々々々

城中小入敵あ兵鉄炮てつとら成重なり

鎧乃乃の肩かたふあとられしも成重なり

それを事とせり中城乃門な

以り首二十八はを斬き中城な

小次ことら成重なり即す討つ死にしり

者又人ひと死にしりあらむ七人にあり

とらふをとらふと

大権現

台徳院殿たいとくゑん一い揚ありしゆり戦場せんじやう

乃事なりとらふと



大権現大... 感... 大権現二条乃... 渡御あり...  
をひく日... 成... 事... 款... の... 款...  
いよ... 也

大権現... 奉

い... 奉... 一... 大... 成... 大...  
... 作... 叙... を...



御茶室みろむろをを侍さむらいと

台徳院殿たいとくゑんもも教しやく度た御前みまへより

戦場いくさばの事こととと心こころをを終しまりし事こと

忠ちゆう直ちゆうもも侍さむらいのの威い光こうもも人ひと志し乃の勇ゆう力りきと

上うへりりとと達たつせせとと

寛永九年五月かんゑいくねんごごごのの事こと

台徳院殿たいとくゑんよりより侍さむらいのの事こと記し六む子す

二百にひゃくにとと侍さむらいのの事こと記し百ひゃくに六む子す

百ひゃくにとと侍さむらいのの事こと記し

重おも能ね

頃ころ五ご位ゐ下げ 漢かん語ご

享きやう徳とく十じゅう一いち年ねん

大だい徳とく院ゑんをを侍さむらい礼らいとと侍さむらいのの事こと記し

をを侍さむらいのの事こと記し

台徳院殿たいとくゑんよりより侍さむらいのの事こと記し

元げん和わ九く年ねん大だい徳とく院ゑん再さい陣じん乃の事こと記し

大だい徳とく院ゑんのの事こと記しをを侍さむらいのの事こと記し







門え下こしい甲こ揚りるこ場ば下りるこらいと記

大権現

台徳院殿と評し〜海つゝ

寛永二年の海つゝ

台徳院殿

將軍家よつるを〜海つゝ

重良しんりやう

丹下にげ 生糸なまこ〜

元和二年の海つゝ

台徳院殿と揚し〜海つゝ

父成守越前と〜海つゝ

領地二千石と〜重良と

終はつ今いま

將軍家と〜海つゝ

重方しんぽう

民部少輔

越前参議忠昌と〜海つゝ



家紋 いへんもん

丸心 まるこころ

五菱 ごりょう



中多

重次

佐左衛門

中多花彈守成重が父をり上り

見たり

重玄

九翁

生玉冬何



東照大権現了りて人々を治つた  
永禄年中冬列上野合戦乃とき  
討死す

秀玄

九歳 生母同前

父重玄より死乃とき秀玄は子  
いしけりてその少くして伯父重次  
大権現の始とていふ所より秀玄を

養育しこれに母をとりて  
らに嫁し重玄が遺跡を継

大権現了りて人々を治つた

元和二年小死す歳五十二

玄盛

九歳 生母同前

大権現了りて人々を治つた



嘉永五年國原河乃記

作をうもつ海つら

台徳院殿つらつら海つら

日中又つらつら死

台里

五島島 生國河

嘉永十四年つらつら

台徳院殿つらつら

將軍家つらつら

玄重

十卷

將軍家つらつら

成於

五島島 生國河

寛永九年つらつら

將軍家つらつら



吉玄

九年次

生五歳

寛永八年

將軍家ノ一人ニシテ

吉玄

檀右馬

生四歳

元和二年

右徳院殿ノ湯ノ

寛永元年

將軍家ノ一人ニシテ

家紋

九門ノ志養